

■ 行政としての取り組み

ますます国際化が進む中、外国人は市の発展を支える大きな力であり、活力あるまちづくりの担い手でもあります。地域で外国人との共生を進めていくためには、お互いの違いを認め、理解し合うことが大切です。

急増するブラジルの人たちに対応するため、行政などではさまざまな取り組みを行っています。

今年度地域振興課に多文化共生室を新設し、課題解決に向け皆さんと考えていきたいと思っています。多くの人の知恵をお貸しください。

■ 国際交流員

多文化共生室には6人の国際交流員が配属されています。

外国籍の人の文化的な背景を理解し、さまざまな相談や通訳の依頼に応じています。

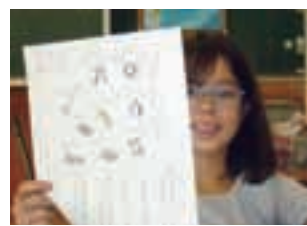
文化や習慣が異なると理解がまったく違うことがよくあるので、通訳はただ単に言葉を訳すだけではなく、言葉を補って伝えるよう工夫をしています。



■ エスペランサ

市内に転入して間もない外国人児童生徒に、小・中学校での学校生活に適應できるように日本の文化や必要最小限の日本語などを教えています。

日常会話ができても、学習の中で使われる日本語を理解することは困難です。また、給食や掃除当番など、生活習慣の違いから経験をしたことがない子どもたちに日本の学校生活の様式などを知ってもらいます。



■ ポルトガル語版広報紙

平成13年1月から毎月15日に「ポルトガル語版広報紙」を発行しています。

特集として、日本の文化や風習などを紹介し、また、毎月1日号と15日号の広報紙の中から、外国人市民に役立つ情報を抜粋しています。

外国人が多く勤める企業や外国人学校、ブラジルの店や大型スーパーなどを通じて配布しています。



■ 自治連合会との懇談会

平成18年1月28日(日)に、市自治連合会と在住外国人市民懇談会が、多文化共生社会の実現に向けて、地域で抱えている問題や課題などについて意見交換を行いました。

出席したのは、両会のメンバーと市関係者16人で、地域に密着した組織である自治会と在住外国人が話し合うことにより、共生への第一歩にしようと企画されました。



■ 多文化共生シンポジウム

平成18年3月11日(日)に「みのかも多文化共生シンポジウム」が開催され、『子どもたちの未来のために自分ができること』をテーマに現況報告とパネルディスカッションが行われ、教育現場などで実際に活動している人たちの話から、自分ができることを探ってきました。

この会議は日本語でしたが、ポルトガル語による通訳が別室で行われました。

